

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属小学校 入澤 佳菜

### 1 単元名 「平和な世界をつくるために」

### 2 単元の目標

- 平和な世界をつくるために、たくさんの人たちが旧陸軍被服支廠を保存するために行動してきたことがわかる。(知識・技能)
- 旧陸軍被服支廠が保存されるにあたり、どう活用していくことが平和な世界の実現につながるのか課題を立てて、考えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 自らも平和な世界をつくるために行動しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

「日本は平和でよかったと思います」「世界が平和になってほしいです」

このような言葉にたくさん出会ってきた。どこか他人事の子どもたちに、このままでいいのかと悩むことも多い。平和学習では「事実に出会わせる」ことと、「平和のために行動する人に出会わせる」ことを大切にしたい。戦争での被害や加害の事実を学ぶこと、その学びの上に平和をつくることまで考えたい。「平和が大切」という定型文を言うことではなく、自分で考え、行動することを大切にしたい。平和について考えることは、自分の生き方を考えることであり、社会をつくることにもつながっている。6年生では社会科の学習で歴史や憲法について学ぶ。その学習とともに、総合的な学習の中での平和学習を通して、「社会のつくり手」としての自分に出会うことをめざしたい。今回は、1学期にヒロシマ修学旅行で訪れた旧陸軍被服支廠（広島市南区出汐）を、3学期に平和のための行動を考える題材として再度取り扱う。

#### (1) 教材観

被服支廠は、大日本帝国軍の被服支廠として建設された建物であり、アジア太平洋戦争の際に使われていた。爆心地から約2.7km離れていたが、爆風の威力で鉄の扉が曲がっている。その曲がった鉄の扉は今も残されている。被爆当時は、被爆された方たちがたくさん押し寄せて、臨時救護所となった。たくさんの方がその倉庫の中で亡くなり、庭でその遺体が焼かれていた。それらの様子は、峠三吉が『原爆詩集』に「倉庫の記録」に記している。

戦後は学生寮や運送会社の倉庫として活用されており、今は「被爆建物」と認定されている。現存する4棟は、3棟を広島県、1棟を国が所有している。

被爆体験の語り部をしている中西巖さんは、その被服支廠で15歳のときに被爆した。被爆の爪痕が残ったままの建物の前で、まさにこの地で被爆された方の話を聞くことができるという、とても貴重な建物である。中西巖さんには、被爆体験継承者が数名おられ、これからも中西さんの体験を聞くことができる。

また、被爆当時の様子が峠三吉の詩という生々しい言葉で、わたしたちは今、出会うことができる。被爆者の方の「原爆の絵」にも数点描かれている。佐藤泰子さんが描かれた「水下さい 死んでもいいから飲まして下さい ひと口ゴックリ 飲ませて下さい」という苦しんでいる若者の言葉が添えられた

絵は、臨時救護所としての被服支廠の様子がわかりやすい。

その当時の様子をいろいろな方法で知ることのできる建物、これが現存しているのである。中西さんは「加害の歴史も伝える資料館として活用したい」と願っておられた。被害を受けた事実とともに、陸軍の倉庫という加害の歴史も持っている建物なのだ。また、日本の鉄筋コンクリート造建物としては現存最古級という建築史的価値もある。

長い間、保存するかどうかが決まっていなかったが、2019年2月広島県が被服支廠を1棟外観保存し、2棟解体するという方針を出す。老朽化しているため耐震工事が必要だが、84億円かかるという理由だった。3か月前の2018年12月には、見学者用の建物をつくり平和学習の拠点にする改修案が出されていたが、一転解体が決まってしまった。

子どもたちにとって、「被爆建物の保存運動」は遠い話である。原爆ドームやレストハウス（大正屋呉服店）が保存されることになったのはずいぶん昔のことだ。だが、今まさに被爆建物を保存するか取りこわすかという問題が起きているのである。現代に生きるわたしたちが、この問題をどう考えるのか。わたしたちの社会はどうするのか。子どもたちはどう考えるのか。被爆地の責任とされがちだった被爆建物の保存。この社会のみんなで、自分ごととして考えたい問題である。

## （2）児童観

1学期、ヒロシマ修学旅行で、子どもたちはまず旧陸軍被服支廠に行き、その場所で被爆された中西巖さんの話を聞く。みんなで出かける旅行、大都会の町並みに浮かれ気分の子どもの様子はここでぐっと変わる。

曲がった鉄の扉のあるレンガ造りの倉庫の前で、中西さんは「私はここに立っていたんです」と語り始める。友だちがここに立っていて、倒れたこと。すぐその木で、亡くなった赤ちゃんを抱えたお母さんがもたれかかっていたこと。目の前の庭でたくさんの遺体が焼かれていたこと。被爆の現実に子どもたちは息を呑み、真剣に中西さんの話を聞く。その地で見て聞いて感じて考えて。そこから町の中に目をこらすと見えてくる被爆の跡、原爆資料館で目にする事実などで学びを深めていく。

そうやって広島の地で学んだ子どもたち。奈良に帰ってから、たてわりグループ（1～6年の異年齢集団）で、学んだことを自分の言葉で語ることができた。それが、子どもたちにとっての、平和をつくるいとなみである。

2学期には、「平和のために行動する人々」との出会いを重ねている。被爆体験伝承者、平和の本を書いているアメリカ出身の人、「世界の子どもたちの平和像」をつくった子どもたち。いろんな行動に出会い、自分たちも平和を願うのではなく、平和のつくり手になれるのだということ意識し始めている。

## （3）指導観

広島県が出した被服支廠を1棟外観保存し、2棟解体するという方針。このことを子どもたちはどう考えるのだろうか。きっと、「保存してほしい」と思う。「保存したい」ではなく、「保存してほしい」。それは、広島の人への願いである。

「保存してほしい」だけではなく、どうして取り壊されるのか、他の被爆建物はどうなのかを調べることとともに、たくさんの人たちが保存を願い今も行動しているという事実に出会わせることで、自分たちの問題として考えられるよう踏み込んでいきたい。

2021年5月に、広島県は方針を変更し、3棟とも耐震化することを決定した。たくさんの人たちの声、行動によって、保存が実現するのである。その行動は、中西さんたち被服支廠保全の会の長年の

活動だけではない。解体の方針が発表されてから動いた広島 of 若者たちもいる。被服支廠を残すべきだと、SNSを活用してキャンペーンを始め、全国へと発信をした。いろいろな世代の人がつながってあげた声、行動は、日本全国へと発信され、たくさんの署名が届いたのである。その上で、耐震化が実現したことは、行動すれば実現するという、民主主義とは何かを示す意味でも大きかったと思う。

「保存」はゴールではない。何のために「保存」するのか。「保存」して何をするのか。「保存」の先をえがくことで、平和な世界をつくるために、自分たちはどんな行動をしたいのかを考えていきたい。

#### (4) ESDとの関連

- 本学習ではたらかせるESDの視点（見方・考え方）

責任性：社会のつくり手として、自分に何ができるのか考える。

- 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

協働的問題解決力：平和のためにどんな行動ができるのか話し合い行動する。

- 本学習で変容を促すESDの価値観

人権・文化の尊重

- 達成が期待されるSDGs

16 「平和と公正をすべての人に」

#### 4 単元の評価規準

ア知識・技能	イ思考力・判断力・表現力	ウ主体的に学習に取り組む態度
<p>たくさんの人たちが旧陸軍被服支廠を保存するために行動してきたことを理解している。</p>	<p>被服支廠の解体という広島県の方針について、自分の意見を持ち、理由をはっきりさせることができている。</p> <p>保存されるにあたり、どう活用していくことが平和な世界の実現につながるのか考えることができている。</p>	<p>被服支廠の保存にあたり、自分の意見を持ち、発信し、交流するなど、自ら行動しようとしている。</p>

## 5 単元の指導計画（全4時間）

学習活動	学習への支援	評価 備考
被服支廠を1棟外観保存し、2棟解体するという方針を知り、方針について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年2月の広島県の方針を新聞記事で提示。その方針への思いを持たせ、交流させる。</li> </ul>	イ (思判表)
被服支廠がどんな建物か調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・被爆建物（爆心地から2.7km）</li> <li>・陸軍の倉庫。加害の歴史も持っている。</li> </ul> なぜ解体されるのか理由を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化。耐震基準を満たしていない。</li> <li>・耐震化すると84億円かかる。</li> <li>・見学者用の建物をつくり平和学習の拠点にする改修案（2018.12）から一転他の被爆建物はどういう歴史をたどってきているかを知る。</li> <li>・原爆ドーム</li> <li>・レストハウス（旧大正屋呉服店）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜそうなるのかをいろいろな角度から考えさせる。</li> <li>・壊したいわけではなく、仕方なく解体することを押さえる。</li> <li>・被爆建物の保存が、国の仕事ではなく、被爆地広島の仕事になっていることを押さえる。</li> </ul>	ア (知識技能)
たくさんの人たちが保存を願い、行動したことを知り、被服支廠を保存することはどんな意味があるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中西巖さんの願いと行動</li> <li>・たくさんの署名</li> <li>・若者たちのプロジェクトなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年の中西巖さん、被服支廠保全の会の活動を知らせる。</li> <li>・広島県だけでなく、日本全国からたくさん署名が集まったことを知らせる。署名用紙の実物も用意する。</li> <li>・若者たちのSNSを使った発信を紹介し、いろんな年代の人が動いたことを知らせる。</li> </ul>	ア (知識技能)
広島県が方針を変更し、3棟とも耐震化することを決定したことを知る。 保存される被服支廠、これからどうしたらいいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけそのままの形で残す</li> <li>・被害と加害を伝える展示</li> <li>・世界の人々にも伝える など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年5月の広島県の方針を新聞記事で提示。</li> <li>・何のために保存するのか、保存することで何ができるのかを考え、意見交流させる。</li> </ul>	イ (思判表) ウ (主体的)